

年	組	名前
---	---	----

大分空港 利用者が回復傾向

大分航空ターミナル（国東市）によると、大分空港の2013年度上半期（4～9月）の利用者数は83万3412人で、前年同期に比べ15・3%増となりました。

LCC就航や増便などで

上半期15・3%増

大分航空ターミナル（国東市）によると、大分空港の2013年度上半期（4～9月）の利用者数は83万3412人で、前年同期に比べ15・3%増となった。景気回復傾向を背景に、格安航空会社（LCC）の就航や大分―東京（羽田）線の増便、機材の大型化で利用が広がったとみられる。



利用者の回復基調が続く大分空港

ソウル線は伸び悩む

利用者数は2011年度に東日本大震災などの影響でビジネス、レジャー旅行を控える風潮から落ち込み、上半期は64万7753人（年間約138万人）となった。12年度の上半期は72万2798人で、本年度も回復基調が続いている。

3月末に大分―成田線に就航したジェットスター・ジャパン（本社・千葉県成田市）は「就航以来、月間の搭乗率は約7割で推移している。全国の路線の中でも一定のニーズが見込め、積極的に展開していきたい」と意欲を見せる。成田線との競合が予想さ

れた東京線を運航する3社のうち、ソラシドエアは同時期に1日3往復から4往復に増便した。「上半期の利用者数は約2万人増えたが、搭乗率（59・1%）は昨年同期より7・8%下がった。競争が激しい路線なので自治体と連携するなど他社との違いを強調したい」としている。

(2013年11月5日朝刊5面)

①利用者が増えた理由はどうしてと考えられますか。

.....

.....

.....

.....

②ソウル線の利用状況の傾向は？その理由は何でしょう。

.....

.....

.....

.....

③LCCとは何でしょう。どういった仕組みで「格安」になるのでしょうか。調べてみよう。

.....

.....

.....

.....